

カンショの葉を食害するナカジロシタバ幼虫の防除適期

[要約]カンショに発生するナカジロシタバに対する防除適期は、若齢～中齢の時期である。この時期は、食害量が多い老齢幼虫になる前で、丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期である。

農業総合センター農業研究所

成果区分

普及（情報）

1. 背景・ねらい

ナカジロシタバは秋季に発生密度が高まり、多発生すると大部分のカンショ葉を食害してしまうこともある。また、餌を求めて住宅地などに侵入し、不快害虫としても問題となっている。このナカジロシタバに対する防除適期を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) ナカジロシタバ幼虫に対して若齢時期あるいは中齢時期に殺虫剤を散布すると防除効果が高く、この時期が防除適期である。老齢時期の散布では幼虫密度は低くなるものの、既に食害が進んでいるため被害程度は高い（図1）。
- 2) 防除適期は、食害量が多い老齢幼虫になる前で、丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期である（図2 - 、 ）。
- 3) 既存の各種殺虫剤はナカジロシタバ幼虫に対する殺虫効果が高いが（18年度主要成果）、圃場に散布した場合には薬剤によって残効の長さが異なるため、防除効果に差が生じる。シペルメトリン水和剤（商品名：アグロスリン水和剤）およびルフェヌロン乳剤（商品名：マッチ乳剤）は比較的残効が長く、幼虫発生の1週間前に散布しても幼虫密度抑制効果が得られ、被害も少ない。残効が中程度～短い薬剤は、幼虫発生前の散布では十分な防除効果が得られないので、幼虫発生後に薬剤散布を行う（図1、表1）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 若齢幼虫（1～2齢）の体長は2～7mm程度、中齢幼虫（3～5齢）の体長は8～30mm程度（図2 - ）、老齢幼虫（6齢）の体長は35～55mm程度である。
- 2) 脱皮阻害剤のルフェヌロン乳剤、テフルベンズロン乳剤およびテプフェノジド水和剤は遅効的であり食害が進むので、散布時期は3～4齢時期までである。
- 3) 各薬剤の系統、特徴については、18年度主要成果を参照する。
- 4) 本成果に記載された薬剤は、いずれもカンショのナカジロシタバに対して登録がある（平成20年1月現在）。散布の際は、収穫前日数に注意する。

4. 具体的データ

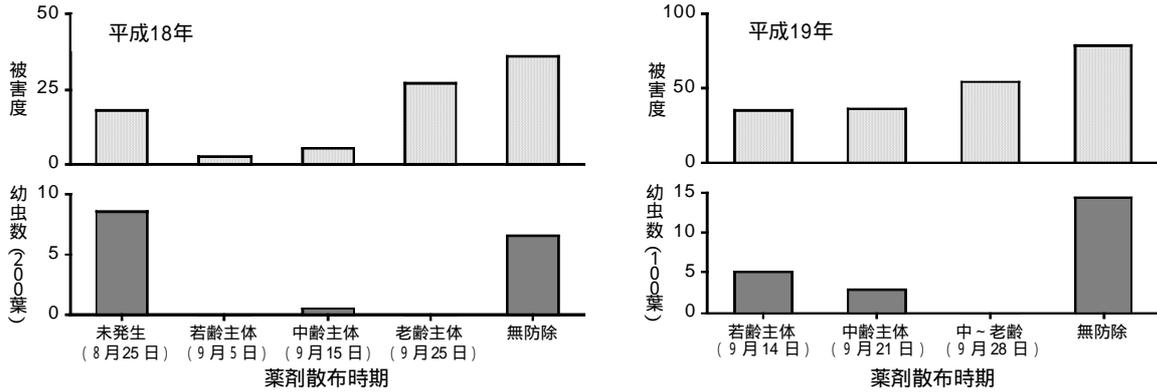


図1 薬剤散布時期別のナカジロシタバ幼虫に対する防除効果

注) 平成18年：品種は「ベニアズマ」。薬剤はエトフェンプロックス乳剤を供試した。

幼虫数および被害度は、10月4日に調査した。若齢は1～2齢幼虫、中齢は3～5齢幼虫、老齢は6齢幼虫。

平成19年：品種は「ベニアズマ」。薬剤はDEP乳剤を供試した。

幼虫数は、10月2日に調査した。被害度は、10月10日に調査した。

被害度 = (4A + 3B + 2C + D) / (調査葉数 × 4) × 100

A：食害面積率75%以上の葉数、B：食害面積率51～74%の葉数、C：食害面積率26～50%の葉数、D：食害面積率1～25%の葉数、E：食害面積率0%の葉数



図2 ナカジロシタバ被害葉と幼虫

表1 幼虫発生時期前に散布した場合のナカジロシタバに対する各種薬剤の防除効果 (平成19年)

| 供試薬剤 | 希釈倍数 | 幼虫数 / 100葉 | 被害度 | 防除価 |
|---------------|-------|------------|------|------|
| シペルメトリン水和剤 | 2,000 | 3.5 頭 | 30.0 | 57.7 |
| ルフェヌロン乳剤 | 3,000 | 0.5 | 35.0 | 50.7 |
| テフルベンズロン乳剤 | 1,000 | 6.0 | 42.5 | 40.1 |
| エトフェンプロックス乳剤 | 1,000 | 7.0 | 49.5 | 30.3 |
| インドキサカルブMP水和剤 | 2,000 | 3.0 | 56.0 | 21.1 |
| プロフェノフォス乳剤 | 1,500 | 4.5 | 58.5 | 17.6 |
| プロチオフォス乳剤 | 1,000 | 7.0 | 63.5 | 10.6 |
| チオジカルブ水和剤 | 1,000 | 10.5 | 63.5 | 10.6 |
| テプフェノジド水和剤 | 2,000 | 8.5 | 74.5 | 0 |
| アラニカルブ水和剤 | 1,000 | 13.0 | 90.5 | 0 |
| DEP乳剤 | 1,000 | 16.0 | 89.5 | 0 |
| 無処理 | | 8.5 | 71.0 | 0 |

注) 品種は「べにまさり」、薬剤は8月24日(幼虫発生時期の約1週間前)に散布した。

幼虫密度調査は9月28日(散布35日後)に、被害調査は10月10日(散布47日後)に行った。

防除価 = (1 - 薬剤処理区の被害度 / 無処理区の被害度) × 100、0以下は0とした。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

かんしょ食葉性ガ類の防除対策と特別栽培農産物に適合する病虫害防除体系の確立・平成17～19年・病虫研究室

